

ほかんけんだより



マダニからうつる感染症～SFTS～

SFTS(severe fever with thrombocytopenia syndrome:重症熱性血小板減少症候群)は、ダニからうつる非常に致死率の高いウイルス感染症です。2011年に中国で初めて発見されてから、国内でも下右図のように西日本を中心に発生が報告されています。

SFTSってどんな病気？

潜伏期間

通常6日～2週間程度

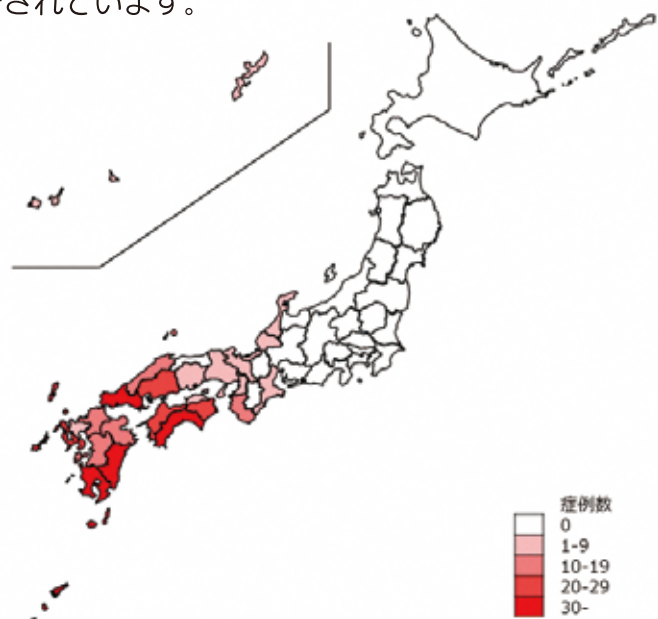


症状

発熱, 消化器症状, 肝機能障害, 腎機能障害, 血液凝固系の異常

治療法

症状に対する治療。現在, SFTSウイルス自体に有効な薬やワクチンはない



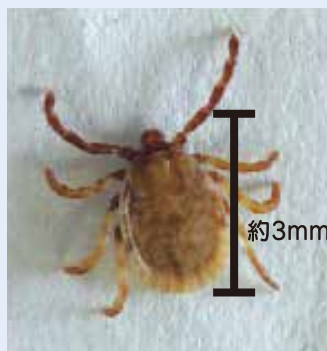
SFTS症例の届出地域 (n=324, 2018年4月25日現在)
国立感染症研究所ホームページより

SFTSの感染経路

SFTSはウイルスを保有しているマダニに咬まれることで感染します。ただし、すべてのマダニがSFTSウイルスを保有しているわけではありません。

マダニは家庭で出現するダニ(イエダニ)とは種類の違うダニで、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出現するような環境に多く生息しています。春から秋にかけて活動が活発になり、草の上などから動物の上に飛び降り吸血を行います。ハイキングや草刈りの際に人が咬まれることもあります。マダニは通常3～8mm程の大きさですが吸血すると1cm以上の大きさに膨れあがります。

マダニは雑木林の草木の葉などに付着して近くを動物が通るのを待っています。



マダニ(吸血前)



マダニ(吸血後)

保健環境研究所の役割

保健環境研究所では、保健所と連携してSFTSの確定診断のための検査を行っています。

医療機関が患者を診察してSFTSが疑われる場合、保健所に届け出ることが義務付けられています。

保健環境研究所では保健所を通じて医療機関から患者の血液や尿などを入手し、遺伝子検出を試みることで病気の原因が本当にSFTSウイルスによるものなのかを検査しています。

保健環境研究所での検査数推移

年	2013	2014	2015	2016	2017
検査人数	6	3	5	4	10
陽性数	-	-	1	-	-

検査の流れ



届出・
検体の発送



検査結果
報告



保健環境研究所

マダニに咬まれないために

マダニはSFTSだけでなく、日本紅斑熱やライム病、ダニ媒介性脳炎などの感染症を引き起こす病原体を保有していることがあります。

このような感染症を予防するためにはマダニに咬まれないようにすることが大切です。春から秋にかけて森林や草むらなどに入る際は下図左のような軽装は避け、下図右のように肌の露出をできるだけ少なくしましょう。虫よけスプレーも一定の効果がありますが、発汗などで流れおちてしまうので、補助的なものとして利用しましょう。

悪い例



- × タンクトップ
- × 半袖Tシャツ
- × 短パン
- × 半ズボン
- × サングダル

良い例



- 長袖
- 長ズボン
- 手袋
- ズボンの裾は長靴の中に



それでもマダニに咬まれてしまったら...

吸血中のマダニに気付いたときは、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残ってしまう恐れがあります。皮膚科などの医療機関で処置を受けてください。また、マダニに咬まれた後、数週間は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は医療機関を受診してください。

編集・発行 福岡市保健環境研究所

〒810-0065 福岡市中央区地行浜2丁目1-34
 TEL:092-831-0660 FAX:092-831-0726
 E-mail:hokanken.EB@city.fukuoka.lg.jp
 URL:http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/hokanken/

ホームページも是非ご覧ください

廃棄物資源化担当及び
 廃棄物処理施設担当の事務所

〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭4丁目13-42
 TEL 092-642-4570 FAX 092-642-4595

